

〔運営法人：社会福祉法人 南高愛隣会〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「ハローフレンズ」他〕（長崎県雲仙市）

WEBサイト：<http://www.airinkai.or.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 長崎県雲仙市にある社会福祉法人南高愛隣会は、離島を除く県全域で、50か所の障害福祉サービス事業所を運営する大規模法人。昭和52年の設立時にホルスタイン肉牛を肥育して以来、40年以上も農畜産業に取り組む。
- 現在、2つの障害福祉サービス事業所において、知的障害者を中心とする施設利用者52名が、和牛繁殖、地鶏の飼育、アスパラガスのハウス栽培等に通年で取り組んでいる。
- また、昭和52年の設立当初から、施設利用者は、施設外就労により、島原半島の農業者の所での農作業や種バレイショ選果施設での選果作業等も行っており、地元の農業分野における貴重な労働力となっている。

取組の内容

- ◆ 和牛素牛32頭を肥育し、年間21頭の子牛を出荷。また、地元企業から、県開発のブランド地鶏「長崎対馬地どり」の雛の提供を受けて育成し、年間約6千羽を出荷。アスパラガスは、年間約7tを出荷。
- ◆ 施設外就労として、雲仙市を中心とした農業者30戸でのダイコン収穫、タマネギの苗植え・収穫等を行うほか、種馬铃薯協会のバレイショ選果場での選果作業等を実施。
- ◆ レタスやイチゴの農業者、畜産農業者に利用者を年間最大180日通ってもらう職業訓練を実施。

取組の効果

- ◆ 40年以上取り組んできた農畜産技術を信頼され、農業者等からの農作業請負の依頼が年々増加し、現在は要望に答えられないほど。障害者が、地元の農業分野における貴重な働き手となっている。
- ◆ 障害者による丁寧な飼育の結果、和牛は、県内の和牛共進会で2度受賞するなど高評価。また、牛の発情・疾病を人工知能で検知してスマートフォンに通知するシステムも導入でき、省力化にも貢献。
- ◆ 地元JAから模範的アスパラ栽培の躍進賞を受賞するなど、高い栽培技術を確立。高い評価を得ることで職員と利用者のモチベーションが向上。
- ◆ 令和元年度における売上は、和牛子牛1,700万円、地どり360万円、アスパラガス750万円、農作業請負900万円に上り、同年度の平均月額工賃は、2つの事業所平均で約2万5,000円と、農業関係事業のみで県内B型平均を上回る。

2度の受賞歴を誇る和牛



ブランド地鶏の飼育



アスパラガスの収穫



- 熊本県大津町にある株式会社なかせ農園は、サツマイモ栽培30年の農業者が前身。後継者の就農後、平成28年に法人化。
- 高品質・高糖度で、食味を安定化させる栽培を目指している。収穫後に徹底した温湿度管理で熟成貯蔵し、甘みの強いサツマイモだけをブランド名「蔵出しベニーモ」で出荷。また、G-GAP認証を取得して、生産出荷体系の標準化や労働力の安全管理体制を構築に取り組み、障害者が働きやすい環境を創出。
- 平成28年の法人化と合わせ、新卒の障害者1名を雇用するとともに、町内の就労継続支援A型事業所に作業を依頼し、障害者の就労の場を提供。経営規模は、平成23年の4haから令和2年には11haに拡大。

取組の内容

- ◆ 農地11haでサツマイモを専作しており、青果のほか、干芋の製造・販売も実施。シンガポールへの輸出にも取り組む。
- ◆ 障害者の雇用は、特別支援学校高等部の学生を職場実習で受け入れたのがきっかけ。仕事の飲み込みが早く、収穫等の機械作業の補助も含め、多くの作業に対応。
- ◆ 事業所の請け負ってもらう主な作業は、苗床での苗切り、収穫したサツマイモのつる切り、機械を用いた選別作業など。
- ◆ 苗切り作業は、イモの苗を切って、コンテナに入れる作業。この作業を苗を切るだけの人、切った苗をまとめてコンテナに入れる人に作業を分けている。

水はけのよい火山灰土のほ場



貯蔵倉庫の内部



取組の効果

- ◆ サツマイモ栽培には人手を要するため、家族のみでは経営規模を拡大できず、健常者の雇用も人手不足で難しい中、障害者の労働力があって可能となり、平成23年の4haから倍以上に拡大。
- ◆ 熊本県では、特別支援学校の高等部から一般就労することは多くないため、雇用されたことを誇りに思っており、意欲的に働いている。
- ◆ 事業所に作業を依頼することにより、障害者4名が年間6～8ヶ月程度作業に従事。多くの障害者に長期間、就労の場を提供。
- ◆ 町内の若手農業者と共同で、サツマイモをお菓子用原料として町内の菓子メーカーにも販売するなど、新たな取組にもつながっている。

芋の重さによる選別作業



蔵出しベニーモ



WEBサイト：<https://oitakyoiyu.net/nouen.html>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 大分県は、平成25年度から、作業の人手が足りないJA等と障害福祉サービス事業所を結びつける「農作業共同受注事業」を実施。
- 県の障害福祉課は、JAの選果場における出荷調製作業を中心として作業の掘り起こしを行い、県から共同受注窓口の事務局を委託された社会福祉法人太陽の家は、そのような作業ができる障害福祉サービス事業所を県に紹介。
- 事業が定着化したことから、平成29年度頃からは、センターが介在せずに、契約当事者だけの契約締結が進みつつあり、現在は、センターの会員101事業所のうち約40事業所が、農園芸部会員として作業を請負。

取組の内容

- ◆ 県障害福祉課に配置されたコーディネーター3名が作業を掘り起こす。太陽の家は、事業所への意向調査等を踏まえて作業を請け負う事業所を選定し、県に紹介。
- ◆ 取組当初は、県とJA等で障害者に適した作業を検討し、サツマイモの出荷調整、加工用カボスの収穫、ミカンのパック詰め等15作業を選定。
- ◆ 現在、JA東部・豊肥・南部の各事業部に対応して、近隣の事業所等で構成する4グループ（8～10事業所で構成）が、各JAの選果場等で作業。
- ◆ 作業現場へは、各事業所は職員1名と施設利用者4名程度のユニットで出向く。報酬は、処理量等に応じた出来高払い（一部時給払い）であり、単価は事務局が調整。*例：甘藷の出荷調整は10円/kg

ハウスミカンパック詰め作業



加工用カボス収穫



取組の効果

- ◆ 単独の事業所では対応できない大量の作業発注についても、事業所間の融通により対応。作業に従事した障害者数は、平成25年度の延べ約4千人から、平成29年度には延べ約1万1千人に増加。柑橘、ネギ、サツマイモなどの産地の維持に貢献。
- ◆ 選果場等の作業を複数の事業所で請け負うことで、毎日の対応が困難な事業所も参加しやすくなり、また、作業予定日に利用者が参加困難となった際も、他の事業所によるフォローが可能。
- ◆ JAとの信頼が醸成され、休憩室の確保等を実現。また、ミカン包装袋等の改善を提案し、作業性が向上。

甘藷の出荷調整作業



二ろの出荷調整作業



- 鹿児島県南さつま市にある株式会社南風ベジファームは、平成24年に設立された農業法人。代表は、漬物製造業として起業後、原料生産のために農業を開始。赤シソを中心とした野菜を栽培する。
- 人手不足に対応するため、平成27年、多機能型事業所「南風i（アイ）」を開設。同施設の利用者45名が、農作業や加工作業に従事。また、近隣のサツマイモ農業者から、芋の苗植え作業等を請負。
- 平成30年に惣菜製造加工場を新設。県内スーパー向けに、ポテトサラダ、切り干し大根等の製造・販売、原料のジャガイモ、大根等の生産を推進。さらに、令和元年にカフェを設置し、高齢者への食事の提供等に着手予定。

取組の内容

- ◆ 約6haの農地で赤シソ、高菜、ジャガイモ、ダイコン等を生産。生産した農産物は、自社で惣菜等に加工・販売。高菜の一部は、外部の漬物業者へも販売。
- ◆ 芋の苗植え作業は、機械化が難しく人手を要するため、人手の確保が困難になった近隣農業者から、約10ha分を請け負い障害者等の10名が作業。
- ◆ 他方、自社で生産する高菜は、収穫作業の機械化が難しく、人手を要するが、収穫以外の作業は機械化が可能のため、芋の苗植えを請け負っている近隣農業者に約5ha分の作業を依頼。

取組の効果

- ◆ 漬物等の加工技術を有し、販路が確保されていることもあり、着実に野菜生産、加工事業の規模拡大が図られ、利用者数は、平成27年の18名から平成30年には45名に大幅に拡大。
- ◆ 豊富な利用者の労働力を活かして、近隣農業者の間で芋苗植付け作業の請負、高菜栽培の依頼に取り組み、地域農業者と相互の協力体制を構築。地域農業の維持発展に大きく貢献。
- ◆ 芋の苗植え作業の請負報酬は、作業面積による成果制。農業者からは、金額を予想しやすく、安心して依頼できると好評。

夏は赤シソ栽培が中心



冬は高菜の収穫・加工



芋の苗植え



空き工場を改修し惣菜加工に着手



〔運営法人：社会福祉法人 白鳩会〕

（鹿児島県南大隅町）

〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援A型・B型等）「花の木ファーム」他〕

WEBサイト：<http://shirahatokai.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 鹿児島県南大隅町にある社会福祉法人白鳩会は、昭和47年の設立以来、現在は約100名の知的障害者を中心とした施設利用者とともに、野菜の生産、お茶の栽培や養豚などを行っている。
- 昭和53年には、より効率的で大規模な農業経営を行うために、別法人として農事組合法人 根占生産組合を設立。社会福祉法人が運営する障害福祉サービス事業所から、農事組合法人へ施設外就労する形をとる。
- 耕作放棄地や離農地を引き受けることで、経営耕地面積は約45haと広大であり、地域農業の維持に貢献。
- 施設利用者の中には、触法障害者21名を含み、再犯防止にも貢献。

取組の内容

- ◆ 県内3か所の農場で、ニンニクやイチゴ等の生産、サラダホウレンソウの水耕栽培、茶の栽培、養豚（子豚約600頭の肥育）を行う。茶の栽培面積は約7haと県内有数の規模となっている。
- ◆ 養豚に従事する利用者数が最も多く16名（平成29年度）。利用者は、豚舎清掃にとどまらず、交配・分娩補助、給餌等も行っている。長い経験により高い技術を誇る利用者もいる。
- ◆ 加工施設とレストランも併設しており、農畜産物をソーセージや餃子等に加工して販売・提供。
- ◆ 触法障害者が21名就労する。

お茶の栽培管理



子豚の搬出



ソーセージの結束



取組の効果

- ◆ 長い農業の経験をもとに、適切な生産工程を確立し、平成27年に有機JAS、平成28年に鹿児島県K-GAP、令和元年にASIAGAPを相次いで取得。
- ◆ 農業技術を信頼されて、地域の農地を引き受け続けてきた結果、当初は5haだった経営耕地面積は、約45haまで拡大。地域農業の維持に貢献。
- ◆ 規模拡大に伴い、平成30年度における売上は約3億9千万円と開始当初の8倍に増加。平成30年度における平均月額賃金/工賃は、A型約9万3千円、B型約2万2千円と県内平均を上回る。
- ◆ 触法障害者を多く受入れ、就労や居住の場を提供することで、再犯防止に貢献。

農場全景

